



## 戦時期・ファシズム期の学際的研究にむけて ——抵抗形態としての文化を把握するために——

参加者：楊雨双（社会学研究科）・下村晃平（社会学研究科）・大月功雄（社会学研究科）・平石貴士（衣笠研究機構）・  
福井優（文学研究科）・内藤あゆき・田村太（京都大学）・秋田市太郎（法学研究科）

### 1. 戦時期・ファシズム期への視座

何に注目することで、ファシズムの時代、それへの抵抗をとらえることができるか？



参加者の関心：文化・芸術、フェミニズム、社会運動、動物、思想、パルクール...



これらの問題意識を横断するような学際的アプローチを試みることで、ファシズムという時代を立体的に捉えることができる

### 2. 方法

#### 運営方法

- ・各自が自身の専門領域から関連する文献を選定し、内容を報告。参加者間で内容を検討する。

#### 文献

Goodwin, J., Jasper J. M., and Polletta, F., Edited, 2001, *Passionate Politics: Emotions and Social Movements*, Chicago and London, The University of Chicago Press.

Hartwell, Ronald, Max, 1995, *A History of the Mont Pelerin Society*, Indianapolis, Liberty Fund.

Могильнер, М., 1999, *Мифология подпольного человека: Радикальный микрокосмос в России начала XX века как предмет семиотического анализа.*

生田武志『いのちへの礼儀：国家・資本・家族の変容と動物たち』（筑摩書房、2019）

岩崎昶『映画と資本主義』（往来社、1931）

エルンスト・ブロッホ（池田浩士訳）『この時代の遺産』（水声社、2008）

神島二郎『近代日本の精神構造』（岩波書店、1961）

ベリンダ・ウィートン（市井吉興・松島剛史・杉浦愛監訳）『サーフィン・スケートボード・パルクール：ライフスタイルスポーツの政治と文化』（ナカニシヤ出版、2019）

### 3. 成果

#### ○修士論文

・楊雨双「ハッシュタグから社会運動へ：運動者の感情による中国#MeToo 運動展開の分析」

#### ➡検閲体制下における SNS 上でのフェミニズム運動の展開

・田村太「ザヴィンコフ - ロープシンを読む：銀の時代における自伝的言説と『蒼ざめた馬』」

・秋田市太郎「初期エルンスト・ブロッホにおける非同時代性の思想」

#### ➡政治と芸術・小説との関係を検討

#### ○研究報告

・大月功雄「戦争映画批評の時代：岩崎昶、あるいは批評の可能性について」

#### ➡ファシズム芸術の美学化とその抵抗の実践としての「批評」を検討

・福井優「神島二郎の思想形成：一高在学時の論考を手がかりに」

#### ➡1950年代における「日本ファシズム」研究の思想的背景についての検討

・内藤あゆき「軍事的暴力の検討に向けて：日本の戦時期における動物の経験」

#### ➡戦時体制が及ぼす暴力を動物の視点から検討

・平石貴士「パルクール：都市と身体運動への想像力」

#### ➡ファシズム期の運動文化政策への抵抗戦略としてのパルクールの運動的想像力を検討

### 4. 今後の課題

本研究会では、学際的なアプローチを通じて、ファシズムないし統治権力の作用を分析し、それに抵抗する実践形態としての文化の意義に迫ることができた。



戦時期・ファシズム期といっても、それは時代や地域によって異なる。ゆえに今回明らかになった点をそれぞれの文脈に据え直す作業が必要となる。